Japonismes 2018

＜報道関係各位＞

プレスリリース【ジャポニスム 2018　舞台公演事業】　　2018 年 9 月 27 日

日本のコンテンポラリーダンスにパリが注目
東京ゲゲゲイ、島地保武、川口隆夫、森山開次、伊藤郁女、森山未來
ジャポニスム 2018：響きあう魂

東京ゲゲゲイ　Tokyo Gegegay©Arisak

島地保武　Photo par Momoko Japan, Takao Sakai ｜ Design par Isao Kanemaki

川口隆夫　©Takuya Matsumi

伶学舎×森山開次

(Left) ©Jérémie Souteyrat (Right) ©Isamu UEHARA(Sun-Ad)

伊藤郁女×森山未來　©Théo Touvet

2018 年 7 月よりパリを中心にフランスで開催中の日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」。その約 70 に及ぶ公式企画に、5 つのコンテンポラリーダンスがプログラムされ、パリを中心に公演・クリエイションを行っています。

今回フランスで公演やクリエイションを行うのは東京ゲゲゲイ、島地保武、川口隆夫、森山開次、伊藤郁女、森山未來。個性的なパフォーマンスと創造性で注目を集めており、「ジャポニスム 2018」公式プログラムとして、パリを中心とした劇場が自ら開催意欲を示したアーティストたちです。

◎日仏ダンス共同制作　トリプルビル　フランスツアー中

2018.9.18（火）～11.14（水）
国立シャイヨー劇場、リヨン・ダンスビエンナーレ他

日仏の注目アーティストが共に創り出すヒップホップ・ダンスの最前線。

日仏のヒップホップ・アーティストを交流させるこのプロジェクトは、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018 のディレクターを務めるフランス人振付家ドミニク・エルヴュのアイディアから生まれました。高い芸術性を備えたヒップホップ・ダンスで注目されているカデル・アトゥと近年頭角を現している若手振付家ジャンヌ・ガロワが 5 人の日本人ダンサーをオーディションで選出し、共に新作に挑みます。さらにフランスでは初公演となる MIKEY 率いる東京ゲゲゲイが加わり、三者三様の感性とアプローチによって生み出される作品は、ヒップホップ・ダンスのイメージを全く一新するものになるでしょう。横浜で創作・世界初演後、国立シャイヨー劇場でのフランス初演を経て、リヨン・ダンスビエンナーレなどフランス各地で約 2 ヶ月間のツアーを実施。

＊パリ初演で大喝采を博した東京ゲゲゲイ。フランス国内ツアー地はこちら！

リヨン（リヨン・ダンスビエンナーレ）、シャンベリ、エシロル、サン＝テティエンヌ、ナンテール、ルーアン、ブレスト、メリニャック、ラ・ロシェル

報道関係者からのお問い合わせ先：
（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局　株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子
住所：〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5　JPR 千駄ヶ谷ビル
TEL：03-6894-3201　FAX：03-5413-3050　E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

Japonismes 2018

◎ファブリック・シャイヨー／島地保武 ダンス創作のためのレジデンス・プログラム

2018.9 月～11 月

島地保武が日本人として初参加。 フランス滞在制作中 国立シャイヨー劇場

国立シャイヨー劇場が才能溢れる振付家・ダンサーに提供する創造のためのレジデンス・プログラム。

国立シャイヨー劇場が、世界から集めた才能ある振付家・ダンサーに創造の機会を提供するために開始したレジデンス・プログラム「ファブリック・シャイヨー」。本プログラムにダンサー・振付家の島地保武が日本人として初めて参加します。欧州のトップカンパニーで活躍していた島地は、ダンサー・振付家としての卓越した技術と創造力が高く評価され、多くの候補者の中から指名を受けました。島地は、ダンサーの小尻健太と辻本知彦、音楽家の岡直人と共にパリに約 1ヶ月滞在し、シャイヨー劇場のスタジオで、4500 種類ほどあると言われる日本語のオノマトペを題材とした新作ダンスの制作に取り掛かかります。その創造の成果は、ワーク・イン・プログレスとして、フランスの劇場関係者に向けて公開される予定です。※創作のためのプログラムであるため一般には公開されません。

◎コンテンポラリーダンス―川口隆夫『大野一雄について』

2018.10.2（火）～5（金）
パリ市立劇場 エスパス・カルダン

伝説の前衛舞踊家に寄せる全身全霊の讃歌。 初日間近 10/2

ダンスアーカイヴの活用から生まれた作品『大野一雄について』は、舞踊シーンに独自の軌跡を描きつつ、上昇飛行を続けています。大野一雄の『ラ・アルヘンチーナ頌』(1977)、『わたしのお母さん』(1981)、『死海』(1985)のビデオを分析し、舞踏家の微細な動きから、観客の咳払いやビデオ収録の操作ミスまで「完全コピー」する一方、大野一雄の前衛映画 『O 氏の肖像』(1969)を大胆に再解釈してパフォーマンス化する力強いコンセプトは、「オリジナルとは何か」「振付とは何か」という問いを投げかけ、「大野一雄」を知る、知らないを越えて、世界の観客を魅了してきました。本作は、2016 年のニューヨーク公演においてベッシー賞ファイナリストにノミネートされました。また今年は、毎年世界最高水準の芸術家が顔を揃えるフェスティバル・ドートンヌにプログラムされています。

＊パリ公演後、マドリッド、マニラ、バンコクでも本作を巡回上演！

◎伶楽舎 × 森山開次

2018.10.13（土）フィルハーモニー・ド・パリ

雅楽の演奏グループとして世界各国で公演をしている伶楽舎。今回の公演ではダンサー森山開次が現代雅楽作品を舞います。

伶楽舎は雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や現代作品の演奏に積極的に取り組み、国内外で幅広い活動をしており、現代作曲家へも定期的に古典雅楽様式の新作を委嘱。今回の公演ではそんな伶楽舎ならではのプログラムが組まれています。第一部『露台乱舞』は平安時代から室町時代にかけて宮中で行われていた音楽行事を、音楽監督の芝祐靖が復曲、構成したもので、音楽や歌、舞で構成された宴が再現されており、雅楽の初心者にとっても親しみやすい内容の作品です。

また第二部では伶楽舎が委嘱し初演された権代敦彦の『彼岸の時間』（2003、2018 改訂）と猿谷紀郎の『綸綬(りんじゅ)』（2010）を、現代日本を代表するダンサー・振付家の一人、森山開次演出振付によるコンテンポラリーダンスとのコラボレーションで世界初演。舞台美術には、日本古来の岩絵具を用いたスケール感ある作品のインスタレーションをパリの教会や世界遺産など国内外で展開し、国際的に評価の高まっている美術家・大舩真言の新作「VOID」が登場。ヘアメイク・松本順、衣裳・大脇幹裕と、新進気鋭のアーティストが結集し、新体操元日本代表選手を含む 4 名の女性ダンサーとともに創作される舞台に注目が集まります。

＊森山開次さんより 公演に向けたメッセージ

「私は、存在と不在が同居するさま、つまり、そこにたしかに存在しながら、あたかも存在していないかのような表現に強く惹かれている。雅楽は時、空間をも超越する幽玄の音。私たちダンサーの身体と伶楽舎の奏でる神聖な響きが現代のパリでどのように共鳴するのか、楽しみでならない。」

報道関係者からのお問い合わせ先：
（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子
住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル
TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

Japonismes 2018

◎コンテンポラリーダンス―伊藤郁女×森山未來『Is it worth to save us? 』

2018.12.18（火）～ 20（木）
メゾン・デザール・ド・クレテイユ

踊ることで世界は救えるのか？！
フランスで活躍する振付家・ダンサー伊藤郁女と多彩な活動で注目を集める森山未來による初のデュオ。

国際的に活躍する振付家・ダンサーであり、メゾン・デ・ザール・ドゥ・クレテイユのアソシエイト・アーティストである伊藤郁女と、俳優として、またダンサーとしてめざましい活躍を見せる森山未來による新作デュオ。2 人はまるで自分たちが「異星人」であるかのような違和感を共有し、この世界と奇妙な距離感をもって生きています。それは三島由紀夫の SF 小説『美しい星』の登場人物が感じているものとよく似ています。2 人はこの小説の核心である「地球は救うに値するのか？」という問いをめぐる異星人の対話に焦点を当て、伊藤による執筆を通じて舞台化。2 人のダンサーの身体とその間にある距離を通して、温かな関係性が生まれたかと思うと次の瞬間には冷淡になることもできる、人間たちの振る舞いを考えます。

横浜の KAAT 神奈川芸術劇場で世界初演後、フランス公演へ！

＊伊藤郁女さんより 公演に向けたメッセージ

「私はダンスを通して人間の裏を見せて行くような舞台に毎回取り組んでいます。今回も、自らを宇宙人と思い込む事で社会からはみ出た自分の居場所を作って行く二人の関係が、皆さんの人生の何処かに繋がって見えると嬉しいです。」

■画像・映像（報道向け提供素材）

公式画像・映像のご提供については下記お問い合わせ先までご連絡ください。

■ジャポニスム 2018 について

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」では、パリ 内外の 100 近くの 会場で、展覧会や舞台公演に加えて、さまざまな文化芸術を約 8 ヶ月間にわたって紹介する、日本文化・芸術の祭典です。
古くは日本文化の原点とも言うべき縄文から伊藤若冲、琳派、そして最新のメディア・アート、アニメ、マンガまで、さらには歌舞伎から現代演劇や初音ミクまで、日本文化の多様性に富んだ魅力を紹介します。同時に、食や祭りなど日本人の日常生活に根差した文化をテーマにした交流イベントなど、会期を通じ約 70 の公式企画を実施します。
また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本各地の魅力をパリに向け、またパリを通して世界に向けて発信します。さらに日本国内における広報活動を通じて、日本文化を再発見できる機会も作っていきます。

ジャポニスム 2018

報道関係者からのお問い合わせ先：
（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子
住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル
TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■画像・映像（報道向け提供素材）

日仏ダンス共同制作　トリプルビル　パリ公演写真提供可能。お問合せください。

＜カデル・アトゥ＞

Kader Attou ©CCN La Rochelle

＜ジャンヌ・ガロワ＞

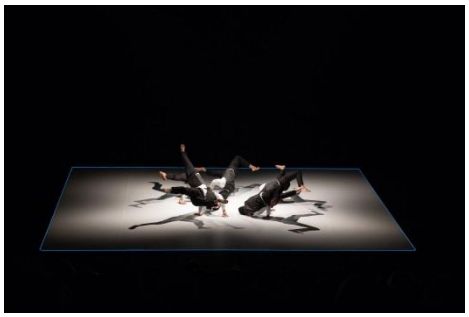
Jann Gallois ©Jody Carter

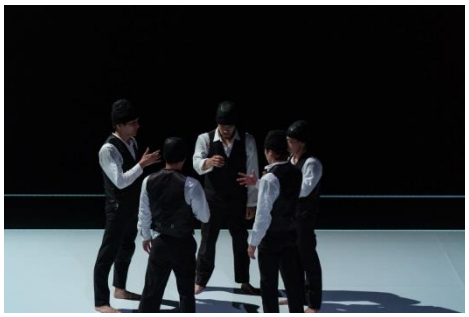
＜東京ゲゲゲイ＞

Tokyo Gegegay ©Arisak

『トリプルビル』内『東京ゲゲゲイ女学院』パリ初演@国立シャイヨー劇場（2018 年 9 月 18 日）
©KOS-CREA　写真提供：国際交流基金　※その他写真多数有り。

『トリプルビル』内『Reverse』振付：ジャンヌ・ガロワ　パリ初演@国立シャイヨー劇場（2018 年 9 月 18 日）
©KOS-CREA　写真提供：国際交流基金　※その他写真多数有り。





『トリプルビル』内『Yoso』振付：カデル・アトゥ　パリ初演@国立シャイヨー劇場（2018 年 9 月 18 日）
©KOS-CREA　写真提供：国際交流基金　※その他写真多数有り。

ダンス・レジデンス―島地保武

スタジオでのクリエイション写真も撮影予定。ご使用に関してはお問合せください。

＜メイン＞

TAKAO SAKAI

張力中

大洞 博靖

＜メイン＞

撮影 Momoko Japan,Takao Sakai

デザイン Isao Kanemaki

・ コンテンポラリーダンス―川口隆夫『大野一雄について』

パリ公演写真も撮影予定。ご使用に関してはお問合せください。

＜メイン＞

©Takuya Matsumi

©Teijiro Kamiyama

©bozzo

©bozzo

©bozzo

©bozzo

©bozzo

©Naoto Iina

©Naoto Iina

©Naoto Iina

©Naoto Iina

©Takuya Matsumi

・ コンテンポラリーダンス―川口隆夫『大野一雄について』

パリ公演写真も撮影予定。ご使用に関してはお問合せください。

©Takuya Matsumi

©Teijiro Kamiyama

©Teijiro Kamiyama

©Teijiro Kamiyama

©Teijiro Kamiyama

©Naoto Iina

©Naoto Iina

©Takuya Matsumi

• 伶楽舎 × 森山開次

パリ公演写真・動画も撮影予定。ご使用に関してはお問合せください。

＜メイン＞

©Jérémie Souteyrat

＜メイン＞

©Isamu UEHARA(Sun-Ad)

©Yoshikazu INOUE

©Jérémie Souteyrat

©Jérémie Souteyrat

Isamu UEHARA(Sun-Ad)

©Sadato ISHIZUKA

©Jérémie Souteyrat

©Jérémie Souteyrat

コンテンポラリーダンス―伊藤郁女×森山未來

パリ公演写真も撮影予定。ご使用に関してはお問合せください。

＜メイン1＞

©Théo Touvet

＜メイン2＞

©Théo Touvet

©Théo Touvet

©Théo Touvet

©Théo Touvet

©Takeshi Miyamoto

©Théo Touvet

©Gregory Batardon